



四條畷市議会議員

ながはた

# 長畑ひろのり News

発行：2008.01.01

vol.007

ご意見は次の e メールアドレスへ sky@nagahata.jp phone：072-878-3205  
公式HP & ブログも次のURLへ http://nagahata.jp fax：072-877-1194

HPもリニューアルしました!

## 今年も頑張ります、市政報告です!

皆さん、こんにちは。今年も四條畷市のために一生懸命頑張りますので、昨年同様、よろしくをお願いします。

また、市政報告チラシ006号で書かせて頂きましたが、市内の皆様へ年賀状を出す事が出来ませんでした。これも市の要綱に従っての事ですので、ご理解下さい。

今号は、昨年12月議会の中で私が行った3点の一般質問を中心に、紙面を通じて報告させていただきます。

## 「四條畷楠公まつり」について!

今まで3回行われた「四條畷楠公まつり」の件については「何をめざしているのか」「具体的な数値目標は何か」の目標と費用対効果について質問しました。ただ、間違えて頂きたくないのは、この祭りの是非を問うのではない点です。

目標については何も回答はありませんでした。情けない事ですが、費用対効果についても同様です。

そこで再質問として、この「四條畷楠公まつり」が次年度繰越金442万円を出している時に市は300万円の補助金を与え、同様に316万円の時に200万円と、金額だけを見るならば、一般的に出す対象とならないはずの事業に補助金を出している点や金額以外の市職員の関わり方について、また、目標について再度尋ねました。

しかし、補助金の出し方の答弁は、事業補助であり、繰越金が高いのは周年記念事業の確保のため、また、市職員との関わりは何も答えて頂けませんでした。それでも、大きな目標があれば納得できるのですが、目標については「地域の活性化を図る」と、通り一遍の寂しい答弁でした。

ただ「今後、補助金については、減額に向けて見直しを図っていく」と答弁を頂きましたので、次の予算では市民の税金を確かな考えで祭りに使って頂けることと思います。



「四條畷楠公まつり」につきましては、私は最初の立上げ時に問題があったように思えます。

地域や商店街から盛り上がった祭りに、市が補助金を出したり、市職員を派遣したりと言う形で現在続いているのであるならば良かったのですが、最初から市が関わりすぎたように思います。今も、市職員の関わり方は、人数や時間とも異常な程に思えます。今後、この祭りが維持発展していく為には、どうしていけば良いのか、市の中での議論も必要です。

できるならば「商工祭り」のような、主体となる団体が、企画立案から当日の行動全てを行う祭りに対し、市の職員が補助的な形で手伝ったり、公共の施設や乗り物を無料で貸したりするのが適しているのではないのでしょうか。

## 「各種アドバイザー」について!

四條畷市には、現在4名のアドバイザーがいます。次に、このアドバイザーの費用対効果について質問したのですが、昨年12月1日に配置された防災担当アドバイザーについては、途中経過や結果も出ていないため除かせて頂きました。

まず、アドバイザーにかかる費用は、平成18年度歳入歳出決算書によりますと下記のようになっています。3名とも市職員と同じ勤務体系ではありません。

まちおこしアドバイザー 1, 800, 000円/年  
財政アドバイザー 2, 554, 038円/年  
スポーツアドバイザー 1, 200, 000円/年  
ちなみに、質問から除いた防災担当アドバイザーは、週4日勤務で250, 000円/月 となっています。

答弁は費用対効果には触れなかったため、再質問でその方々でなければ出来ない仕事なのかを追求しました。その辺りは財政再建にとっても重要な点なのです。

そして、答弁は必要である人材との事でした。私は職員が数年にわたりアドバイザーにアドバイスを頂きながら、未だに必要と答える事に情けなく思いました。

ただ「今後、必要性について考えていく」との答弁も頂きましたので、契約更改時等、今後も防災担当アドバイザーを含め、しっかり追求して行きます。

# 「2学期制」について!

西部地域の各小中学校の2学期に、2学期制の保護者説明会が行われたのですが、あまりにも教育委員会と学校現場での内容が違うので最後にその点について質問しました。

納得いかない答弁が多かったのですが、それでも保護者への理解をどう得るのかとの質問に対し「2学期制についての理解を把握する何らかの方法を用いて、来年の1月を目途として実施していく」と答弁されました。その方法はわかりませんが、この点は評価しました。

そして、一般質問するのは次の3月議会になりますので、2学期制について訴えるのは最後と思い、私の考えを述べました。以下、議会で私が発言したそのままの文章です。

最後に、私が議員となってから定例会での一般質問や議会全員協議会、また教育委員会の私の疑問に対する説明、そして各学校で行われた2学期制の説明会までの経緯を受けて2学期制に対する考えを述べさせていただきます。

「教職員の意識改革」のために2学期制を実施するなどということを前面に出す教育委員会の考えで、教職員は本当に理解するのでしょうか。私は反発するのではと思えてなりません。結果として意識改革につながったとしても、目的がそれでは動かないと思います。

そして、数年経過し「教職員の意識改革」がまた必要だと3学期制へ戻すのでしょうか。なぜこんな理由で2学期制へ移行するとの考えに至ったのでしょうか。視点が間違っていると思えてなりませんし、結果ありきで、無謀な考え方と言わざるを得ません。

視点はあくまでも「子どもたちにとってどうなのか」という議論が優先されるべきなのです。そうあるべきなのに「教職員の意識改革」など納得いきません。

ちょうど文部科学省から「教育課程部会における審議のまとめ」が出され、その中にも「授業時数の増加」はあがっていますので、教育委員会の趣旨は正しいのかもしれない。ただ、国が言うのは、全国学力・学習状況調査の結果も踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力を育むことをめざしているとあります。

つまり、教育委員会や学校現場がどれだけ課題をとらえ、指導面などでの具体的な手立てを考えているかという事が大切なのです。端的に言いますと、形ではない、中身を大切にしなければならないと言うことです。

制度を変えて混乱するより、授業の中身を研究する学校を作っていく限り、四條畷市は生き残れません。

2学期制がその切り札になるとは到底考えられません。

保護者は子どもたちの姿をとおして学校を見ています。子どもたちが教職員の工夫のある授業や、子どもとの信頼関係などを感じるエピソードに安心するものです。まず2学期制ありきではなく、現状不信に対しての声に耳を傾けるべきだと思います。

それでも今後、教育委員会の考えで2学期制へ移行するのでしょうか。しかし、その事で学校が何もかも良い方向へ行くと思っている学校関係者はいないでしょう。軌道に乗るまでは、悪い事も多々出てくるのは当然です。

しかし、今のやり方で今後も進めて行くのであれば、保護者や教職員は2学期制へ移行した為と判断してしまい、流れがおかしくなってしまうかを危惧します。

そう保護者や教職員が思わないよう、また、保護者と教職員がお互いに不信感をつのらせないように、2学期制へ移行する過程、そして移行後の教育委員会の指導は大変重要になってきます。

本日の答弁も、今日言っただけで終わるのではなく、きっちり実践して頂かなければなりません。そして、何もかも、学校現場へ押し付けるのではなく、しっかりとリードできる体制であって頂きたいと要望致しまして、私の一般質問を終わります。

以上、私の2学期制の取組みに対する考えですが、異論を唱える方も多くおられると思います。それを私は否定しませんし、賛成や反対の議論、大いに結構と思います。

そのためにも、教育委員会や学校現場から、公平な視点で見た2学期制のメリット・デメリットを伝えて頂き、保護者はもちろん、市民の方が議論できるようにして頂きたい。

四條畷市、情報公開が常に課題となります。

# 「今後の財政収支見通し」について!

12月議会終了後、議会全員協議会が開かれ、そこで、平成29年度までの「今後の財政収支見通し」が示されました。

しかし、その中の歳入には岡山東地区で行われる予定である「西南開発」が含まれていました。しかも、その為の増収は平成23年度から年々増加で計算されています。

西南開発自体は、これからどうなるのか未定であるにも関わらず「今後の財政収支見通し」に含むことは疑問を感じます。今、この時点で財政収支見通しの計算をするならば、厳しい数字を追わなければならないのではと思います。ここまで楽天的な計算結果を示す中で、四條畷市の財政再建は今後進んでいけるのか、疑問に感じます。